

～ なんかん米 光る粒張り 粒ぞろい ～

今年の稲作もいよいよ大詰め!

後期栄養確保のためにも2回目穂肥は窒素量：1～1.5kg/10aをめやすに施用!

- ・穂揃い期(全茎の90%が出穂した日)の葉色が低いと、胴割粒が多発生する恐れがあります。⇒必要な穂肥と飽水管理による地力窒素の発現を促す。
- ・フェーン現象時は、登熟不良・白穂等品質低下の要因となるため、一時的な深水に。

1 水稻生育状況 (7月20日現在) 草丈：長、茎数：少、葉数：並～やや早、葉色：やや淡

品 種	場 所	移植	草 丈(cm)			茎 数(本/m ²)			葉 数(葉)			葉 色 (SPAD)		
			本年	指標	指標比	本年	指標	指標比	本年	指標	指標比	本年	指標	指標比
コシヒカリ				76						19.0			34.0	
こしづき				77						12.7			37.0	

各地域で記入

2 コシヒカリの出穂期の予想と穂肥施用のめやす

(1) 幼穂形成期・出穂期の予想と穂肥施用のめやす (注：稚苗 5/5 植で予想)

品 種 名	幼穂形成期	出穂期	1 回目穂肥			2 回目穂肥			
			出穂前日数	施用時期	窒素量 (kg/10a)	出穂前日数	施用時期	窒素量 (kg/10a)	
コシヒカリ	5/5 植	7/13	8/4	原則施用しない			10	7/25	1.0～1.5
	5/10 植	7/16	8/7				7/28		

☆気象状況によっては予想日が変わります。今後の情報にご注意下さい。

☆穂垂配合穂肥施用量のめやす

施用量	8 kg	10 kg	13 kg
全窒素量	1 kg	1.2 kg	1.5 kg

(2) 出穂10日前の生育量別穂肥のめやす

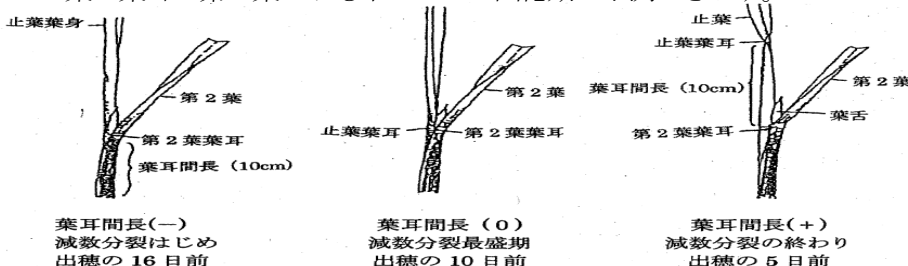
		草 丈		
		85cm 未満	85cm 以上～90cm 未満	90cm 以上
葉 色	淡い SPAD値 35未満 葉色板 4 未満(群落)	窒素成分 1.5kg/10a を施用する	窒素成分 1～1.5kg/10a の範囲で、生育・地力に応じ施用量を決定する。	窒素成分 1.0kg/10a を施用する
	濃い SPAD値 35以上 葉色板 4 以上(群落)	穂肥は施用しない!!		

(3) 出穂前10日のめやす

穂肥2回目は、高温に負けず後半の登熟を良くするための重要な作業です。ほ場間差が大きいので、穂肥の施用前

には、必ず^{ようし}幼穂長もしくは葉耳間長を確認しましょう。

止葉の葉耳が第2葉よりも下か上かで出穂期が予測できます。



○ 2 回目穂肥は遅れずに、葉色の濃さにより加減対応をお願いいたします。

【 裏面に続く 】

3 緊急的な倒伏防止対応について

本年の気象条件から、基肥一発肥料施用ほ場や、ほ場整備跡又は転作跡等の理由により穂肥の施用を中止してもなお、倒伏による食味・品質低下が懸念されるほ場においては、緊急的措置として倒伏軽減剤の使用を検討しましょう。その場合はJA又は普及指導センターと相談し、下記の点にも留意。

(1) 倒伏軽減剤使用のめやす

- ・幼穂形成期の草丈が84cm以上、又は出穂10日前の草丈が94cm以上の場合に限る。

(2) 使用上の留意点

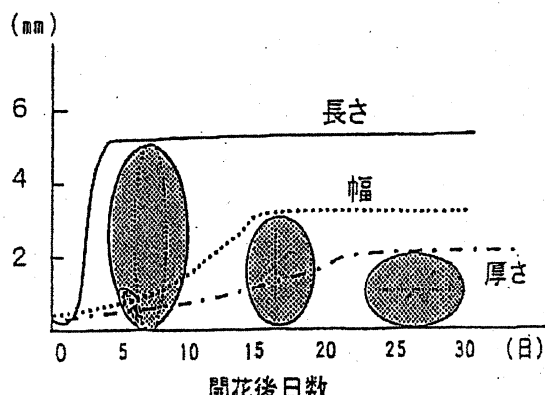
- ・倒伏軽減剤の使用に当たっては、使用時期・使用量を厳守し、重複散布にならないよう注意する。
- ・農薬散布時は周辺への飛散、使用者自身の安全に十分注意する。
- ・農薬使用後は防除歴を記録、保管する。
- ・倒伏軽減剤の使用が、特別栽培農産物等の基準に影響を与えることを考慮して使用する。

4 出穂期以降の玄米の発達

○玄米の発達は出穂開花後25日以降まで続きます。水不足・倒伏・高温等により品質低下を招きやすくなります。だから、こまめな水管理で水分供給が必要です。

5 カメムシ対策（草刈り）の徹底

- 今年の斑点米カメムシ類は発生量が多めです。畦畔等の草刈りを徹底しましょう。



◎ 8月は栽培履歴カードの提出月です。
記入漏れの無いように確実な記帳管理をお願いいたします。

☆稲こうじ病の防除に・・・

撒粉ボルドー粉剤DL!

《登録内容》

適用作物名	適用病害名	10a当たり使用量	使用時期	本剤使用回数
稲	稲こうじ病	3~4kg	出穂10日前まで	—

☆倒伏軽減には・・・

ビビフルフロアブル・粉剤DL

がおすすめ!

《登録内容》

剤型	作物名	使用目的	使用時期	10a当たり使用量	本剤使用回数
フロアブル粉剤DL	水稻	節間短縮による倒伏軽減	出穂10~2日前 出穂10~5日前	75~100ml 3~4kg	1

◎お求めはお近くのJA資材センターへ!

◎記載されている農薬の登録内容は平成22年7月21日現在の内容です。

◎農薬を使用される場合は使用時期・使用量を遵守しましょう。

◎粉剤を散布する場合は近隣圃場や野菜畑・果樹園等に飛散しないよう注意して散布してください。

詳しくは、JA北営農センター：0256-39-7630 JA南営農センター：0258-61-2903へ